

ガーナ：ガーナの LGBT に対する状況に関する情報

ガーナの「①ガーナ国内の LGBT の人びとが、性的指向を理由に、民間人から暴力など身に危険が及ぶような攻撃を受けた事例があるかどうか、あればその件数（もし事例があれば、その資料（ニュース記事など）；②ガーナにおいて LGBT の人びとがガーナ国内の刑法を理由として逮捕されたり、刑事罰を受けた事例があるかどうか；③ガーナにおいて LGBT の人びとが暴力を受けても警察など国家機関に助けを求めることができない状況があるかどうか、国家機関から逆に暴力を受けたりなどする事例があるかどうか；④2024 年 12 月に最高裁判決が下された反 LGBT 法案に対し法案の合憲性に異議を唱える訴訟に関する具体的な情報、判決等」に関する調査依頼に対し、難民研究フォーラムが規定の時間的制約の中で調査したところ、関連しうる情報として以下の情報が見つかりました。

- 1. ガーナ当局による LGBT の人びとの取扱い 1
 - (1) LGBT 関係法令 1
 - (2) LGBT の人びとの逮捕・訴追の事例 3
- 2. 社会における LGBT の人びとの取扱い（民間人による暴力・攻撃等の件数・事例等） 11
- 3. 国家保護、当局による被害者への虐待 17
- 4. 2024 年反同性愛法案と関連訴訟 21
 - (3) 2021 年ガーナの反同性愛法案（健全な人間の性的権利及びガーナの家族的価値観の促進に関する法案（2021 年）） 21
- 参照情報： 23
 - （報告等） 23
 - （研究） 25
 - （記事等） 25
 - （その他） 27

1. ガーナ当局による LGBT の人びとの取扱い

(1) LGBT 関係法令

ア イギリス内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ：性的指向、性自認及びジェンダー表現 \(SOGIE\)、4.0 版](#)」（2024 年 7 月）

<p>8. 法的枠組み</p> <p>8.1 憲法</p> <p>8.1.1 ガーナ共和国憲法（1996 年）第 5 章は平等と非差別を規定しているが、性</p>

的指向や性自認については言及していない [注 5]。

8.1.2 ヒューマン・ライツ・ウォッチ (HRW) は、2021年7月の調査ミッション及びその他の情報源に基づく2021年9月20日付けの記事「ガーナ：身柄拘束後にLGBT活動家らが直面する困難」(以下「HRW困難記事2021年」という。)において、次のように述べている。

「第17条の第1項及び第2項は、法の下での平等を保障し、「性別、人種、肌の色、民族的出身、宗教、信条、または社会的・経済的地位」を理由とする差別を禁止している。」

「第17条はまた、すべての人々の平等と非差別の権利を規定している。憲法はさらに、第15条において人間の尊厳の尊重を、第14条において個人の自由の保護を、第23条においてすべての人々のプライバシーの権利を保障しており、これらの権利はLGBTの人々を含むすべての人に及ぶものと理解されるべきである。」 [注 6]

8.2 刑法

8.2.1 1960年制定(法律第29号)の刑法(2003年改正)は、第6章(性犯罪)第104条において次のように規定している。

「(1) 自然でない性交を

(b) 16歳以上の者の同意を得て行う者は、軽犯罪を犯したものとみなす。

(c) 動物に対して行う者は、軽犯罪を犯したものとみなす。

(2) 自然でない性的行為とは、自然でない方法による人との性交、または動物との性交をいう。」 [注 7]

8.2.2 刑事訴訟法第296条第4項(軽犯罪の罰則に関する規定)によれば、16歳以上の者との合意に基づく「自然でない性交」は、3年以下の禁錮刑に処せられる。 [注 8]

8.2.3 HRWは、2016年12月から2017年2月にかけてガーナで実施した現地調査に基づく2018年1月の報告書『『ありのままの自分を否定するしか選択肢がない』:ガーナにおけるLGBTに対する暴力と差別』(以下「HRWLGBT報告2018年」という。)において、次のように述べている。

「原則として、この罪(自然でない性交)は、男性と女性間のオーラルセックスやアナルセックス、男性同士の性行為にも適用され得る。ガーナの憲法審査会もこのように認めており、「自然でない性交とは、コモン・ローにおいて陰茎による膣以外のものへの挿入を意味する」と述べ、さらに「…この法律は男性が女性または他の男性に対して自然でない性交を行う状況を想定しているが、女性が他の女性に対して自然でない性交を行う状況は想定していない」と付言している。…」 [注 9]

…

※ 脚注の詳細は、原文をご覧ください。

イ ILGA [「逮捕に晒されるアイデンティティ、第2版」](#) (2023年11月30日)

刑事罰規定

刑法（1960年制定、2003年改正）第104条第1項(b)は、16歳以上の者との同意に基づく「自然でない性交」を行った者について、軽犯罪に該当すると規定している。刑事訴訟法第296条第4項によれば、これに対する最高刑は3年の禁錮である。さらに、第278条は、公衆の面前における「著しくわいせつな行為」を犯罪とし、同等の刑罰を科す。第99条はさらに、「自然でない性交」は「最小限の挿入が証明された時点で」成立したとみなされると規定している。[注384]

※ 脚注の詳細は、原文をご覧ください。

(2) LGBTの人びとの逮捕・訴追の事例

ア イギリス内務省 [「国別政策及び情報ノート ガーナ：性的指向、性自認及びジェンダー表現 \(SOGIE\)、4.0版」](#) (2024年7月)

11.4 警察による侵害行為

11.4.1 アウトライト・インターナショナルの2022年保護報告書は、次のように述べている。「恣意的な逮捕や虐待は過去にも存在したが、ガーナのLGBTIQ活動家によれば、法案の影響で2021年にLGBTIQの人びとへの監視が強化された結果、警察による人権侵害がより頻繁かつ組織的に行われるようになった」。ただし同報告書は、こうした侵害行為の頻度や性質に関する詳細な情報は提供していない。[注94]

11.4.2 米国国務省の人権報告2022年は、次のように述べている。「LGBTQI+のコミュニティは、LGBTQI+の人々に対する警察の暴力行為を報告した」[注95]。ただし、暴力の発生頻度や性質に関する詳細は提供されていない。

11.4.3 人権・行政司法委員会 (CHRAJ) に言及し、国家人権オンブズマン機関であるオープンデモクラシー [OpenDemocracy] は、2023年9月26日付け記事「ガーナの司法制度の限界を試すクィア憎悪犯罪事件」(以下「オープンデモクラシー司法制度記事2023年」という。)で次のように述べている。「ガーナ警察は、…人権委員会からクィアの人びとに対する差別的取扱いを非難されている。例えば2020年には、委員会に報告された38件のLGBTIQ (レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、インターセックス、クィア) 差別事件のうち16件が警察を相手取ったものであり、恐喝、強要、身体的・言語的暴行などが含まれていた。」[注96]

…

11.4.5 米国国務省の人権報告2023年は、次のように述べている。「レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィアまたはインターセックス (LGBTQI+) のコミュニティのメンバーは、特に恣意的な逮捕の危険に晒され

ていた。」[注97]

注94 Outright International 「"We Deserve Protection": Anti-LGBTIQ Legislation and Violence in Ghana」(2022年8月29日)

注95 米国国務省「人権状況報告2022年 - ガーナ」(2023年3月20日)

注96 OpenDemocracy 「The queer hate crime case testing the limits of Ghana's justice system」(2023年9月26日)

注97 米国国務省「人権状況報告2023年 - ガーナ」(2024年4月22日)

※ 脚注の詳細は、本クエリー回答の参照情報をご覧ください。

イ [RDC「COIクエリー回答 ガーナ：LGBT」](#) (2024年7月30日)

米国国務省が2024年4月に発表した2023年の出来事を検証する報告書には、以下の記述が含まれている。「…同法は『自然でない性的関係』を犯罪化しており、これは『自然でない方法による人との性交、または動物との性交』と定義された。この罪は同性愛関係にある男性と異性愛関係にある者のみを対象とした。合意に基づく同性間の性的行為で起訴または有罪判決を受けた成人の報告はなかったが、警察は、拘禁、恐喝及び恣意的な逮捕を通じてLGBTQI+コミュニティへの嫌がらせにこの法律を利用した。」[注1]

…

注1 米国国務省「人権状況報告2023年 - ガーナ」(2024年4月22日)

※ 脚注の詳細は、本クエリー回答の参照情報をご覧ください。

ウ [RDC「COIクエリー回答 ガーナ：ガーナのLGBTQコミュニティに関する情報およびLGBTQコミュニティのメンバーに対する取扱い」](#) (2024年3月26日)

この文書〔HRW2024年3月報告〕は、さらに次のように記している。「2021年の法案提出後、21人のLGBT活動家が人権教育の集会を開催したとして、同性愛を助長していること及び集会が不法な集会であるとの理由で、違法に逮捕・拘束された。警察はまた、LGBTコミュニティセンターを家宅捜索し、同センターはその後閉鎖された。」[注7]

…

アクラ警察は、2022年6月26日未明、強盗現行犯の通報を受けて29人の男性を逮捕したと報じられている。強盗団が市内の一軒家に侵入し、居合わせた男性が警察に通報すると、強盗犯らは警官に対し「ゲイのパーティーだ」と主張した。当局は男性らに賄賂を要求したが支払われず、男性らはグバウェ・ノース警察署の空

き女性用留置室に収容された。強盗犯らは逮捕されなかった。同日遅く、複数の弁護士と活動家が保釈を試みたが、逮捕時に重傷を負い歩行不能だった男性1名を解放することに成功したのみだった。6月27日（月）、24時間以上の身柄拘束後、残りの者らは「不法集会」の容疑で起訴され、保釈された。30人目の逮捕者となるトランスジェンダー女性は、パーティーに向かう途中、警察を見てその場を離れようとしたが、同様に逮捕された。彼女は2,000セディ（約240米ドル）の賄賂を要求されたが所持しておらず、グバウェ・ラファ警察署へ連行された。警官の一人が「（彼女を）安全に感じさせるため」と説明して他の被疑者から隔離したと伝えられている。その後、彼女は他の被疑者たちと同じ施設に移送され、同様に保釈された。警察は、彼女の家族に「カミングアウト」をしようとし、母親に「どうするつもりだ？」と問いただしたが、家族は既に彼女の正体を知っていた。ただし、地元活動家らは、逮捕された29人の男性のうちの数名は、その後に家族から勘当された。」と伝えている。[注18]

…

注7 ヒューマン・ライツ・ウォッチ「Ghana: President Should Veto Anti-LGBT Bill」
（2024年3月5日）

注18 国際レズビアン・ゲイ協会（ILGA）「逮捕に晒されるアイデンティティ：成人間の合意に基づく同性間性行為及び多様なジェンダー表現を犯罪化する法律の施行に関する世界概観」（2023年11月30日）

※ 脚注の詳細は、本クエリー回答の参照情報をご覧ください。

エ ILGA「[逮捕に晒されるアイデンティティ、第2版](#)」（2023年11月30日）

法の執行の概要

…

…2011年、ガーナ検察総長は、同性愛行為に及んだ者が訴追される可能性がある」と強調した。アクラでのインタビューで、同国に同性愛禁止法を制定するよう求める声に応え、彼女は刑法が当該行為を刑事犯罪と定めているため、同性愛行為に及んだ者は「法律に抵触する」と述べた。[注387]

同年、西部地域には8,000人の同性愛者の男性が住んでおり、「そのほとんどがHIV/エイズに感染している」[原文ママ]という扇動的なメディア報道を受けて、ポール・エヴァンス・アイドゥ [Paul Evans Aidoo] 知事は、メディアを通じて「家主や入居者」を含む人々に、同性愛者と思われる者を通報するよう呼びかけ、通報された者は即座に「裁判所に送られる」と煽動しました。ガーナの国家捜査局も、同性愛者と思われる者すべて追跡し、逮捕するよう指示を受けた [注388]。アイドゥは、「社会からこうした人々を排除するためにあらゆる努力が払われている」と述べた [注389]。…

2018年、極度の貧困に関する国連特別報告者は、ガーナ現地訪問報告書におい

て、同性間の性的行為は犯罪化されているものの、法律がほとんど施行されないため「実際には」問題はないとガーナ当局は主張した。これに対して、特別報告者は、「政府は私人による差別行為について責任を負わないと主張するかもしれないが、現実には、法律が全体的な枠組みを定め、人々の態度に強く影響を与えている」と反論した。[注 392]

…

法の執行の事例

カナダ移民難民委員会の調査部門が **2006 年**に作成した報告書は、刑事罰規定の執行事例を複数挙げている。これには、18 歳の生徒とのアナルセックスに関与した罪で 2005 年末に裁判を受けた牧師の事例や、アクラで「18 歳の少女をレズビアンに誘引した」として逮捕され、「被害者との自然でない性交の実行」で起訴されたレズビアン女性の事例が含まれる。[注 405]

2006 年 9 月 4 日、ガーナ警察はガーナの東部州のコフォリドゥア [Koforidua] で、同性愛者らが集まっていたとされる集会を解散させた。さらに二つのメディアが、ガーナ政府が 2006 年 9 月に同国で開催予定だった同性愛者の会議を禁止したと報じた。

2007 年 11 月、英国人とガーナ人 1 名が「自然でない性交」および「わいせつな」画像所持の罪で起訴された。報道によれば、英国人はコトカ国際空港で保安検査中に、19 歳のガーナ人女性との性交を撮影した CD が発見され逮捕された。両名はアクラ巡回裁判所で「自然でない性交」の罪を認め、6 ヶ月の禁固刑か約 575 セディ (約 400 米ドル) の罰金の選択を提示された。罰金は英国人男性が両名分支払った。さらに、ガーナ警察刑事捜査部副部長は、地元メディアに対し、同英国人の再入国を阻止するため裁判所へ国外退去命令を申請し、最終的に認められたと説明した。[注 406]

西部州出身のゲイ男性が、2010 年に「自然でない性交」の罪で起訴されたと主張している。裁判は少なくとも 2 年間続き、最終的に裁判所が訴えを棄却した。この男性は新たな生活を始めるため東部州へ逃亡した。[注 407]

一年後、この西部州出身のゲイ男性が、東部州の警察に逮捕され、暴行を受けた。彼は盗難届のために出頭したと主張したが、窃盗犯が彼が同性愛者であることを暴露したため、警察は約一週間彼を拘束した。[注 408]

ヒューマン・ライツ・ウォッチへの報告によれば、**2013 年**、北部州の州都タマレ [Tamale] の市長が、市内の若者に対し、市内の同性愛者に対して行動を起こすよう呼びかけた。これにより少なくとも 1 名が市長と野次る群衆の前に引き出され、その後地元警察署に移送された。同人は、叔父が保釈金を支払い解放され、すぐにガーナの首都アクラへ移住したが、しかしそこでも「アンダーグラウンド」のままであることを選んでいたようである。[注 409]

2014 年 12 月、クマシでレズビアン女性とそのパートナーが、パートナーの母親が警察を自宅に呼び出した後に逮捕され、スアメ [Suame] 警察署に 3 日間拘束された。正式な起訴は一切されず、200 セディ (約 45 米ドル) を支払った後に釈放

された。[注 410]

2016年6月、クマシでのサッカー合宿に参加していた3人の若い女性が、レズビアンであるとの通報を受けた警察によって、100人以上の群衆の前で逮捕された。見物人らは警察車両を警察署まで追いかけた。女性らは署内で侮辱や嘲笑を受けた後、数時間後に釈放された。彼女らはレズビアンであることを否定し、いかなる罪でも起訴されなかったにもかかわらず、サッカー合宿の主催者は3人を追放した。その後、その3人は、家族に「恥をかかせた」として家族から勘当され、困窮した。[注 411]

ケープコースト [Cape Coast] 出身のレズビアン女性がヒューマン・ライツ・ウォッチに報告したところによると、**2016年7月**、父親が彼女の性的指向を知った際、縁を切るとともに警察に通報したという。彼女は逮捕されたが、祖母が保釈金を支払うことができた。正式な起訴はなかったものの、警察署に毎日出頭するよう指示された。[注 412]

2016年8月、パン職人として知られる男性がタノクロム [Tanokrom] で自身の誕生日を祝う大規模なパーティーを開催し、来賓のために精巧なケーキを焼いた。そのケーキを同性婚の証拠であると考えた集団がパーティーを妨害し、来賓を暴行して貴重品を強奪した。主催者は近くのタコラディ市場警察署に事件を通報したが、逆に逮捕され、全来賓の身元開示を迫られた。**300セディ** (68米ドル) の賄賂を支払って釈放された。警察は後に、この同性婚パーティーに参加したとして**15人の男性**を逮捕したが、全員起訴されずに釈放された。[注 413]

2016年12月、ケープコーストのある若者が、路上で見知らぬ者から同性愛者と見なされて嫌がらせを受け、乱闘に発展した。翌朝、その見知らぬ者が警察を若者の自宅に連れてきて、若者は逮捕されてバカアノ [Bakaano] 警察署に連行された。警察は「他の少年と寝た」罪で起訴すると若者を脅したが、後に地方行政の当局者が彼のために介入したことで釈放された。[注 414]

2017年3月、アクラのホテルにある若い男性2人が宿泊した。不審に思ったホテル従業員が彼らを盗撮し、性交中の写真をソーシャルメディアに投稿した。2人はカネシー [Kaneshie] 警察に逮捕された。地元メディアはこの事件を小児性愛者の性的捕食者によるものとして報じようとしたが、当時若い方の男性は18歳以上であった。[注 415] この事件を報じた同じ記事には、前年、アクラの主要国際空港に、「性的逸脱者」がガーナに到着したら引き返すよう促す看板が掲げられていたことも別段落で記載されている。

2018年2月、タコラディ工科大学 (Takoradi Technical University / TTU) の学生寮で、アナルセックスをした疑いで、ゲイの学生2名が逮捕された。このカップルは他の学生に現場を目撃され、警察に通報されたと報じられている。タコラディ警察隊による逮捕後、当該学生らは「医学的検査とさらなる調査のため病院に送致された」。[注 416]

2020年9月、ボルタ州アフラオ [Aflao] 市でレズビアンの女性11名が逮捕されたと、地元メディアが報じた。逮捕のきっかけは、そのうちの2名が性的行為

に及んでいるとされる動画が流出したことによるものだった。[注 417]

2021年1月31日、現地の団体「LGBT+ライツ・ガーナ」[LGBT+ Rights Ghana] は、首都アクラに新たな事務所兼コミュニティスペースを正式に開設した。欧州連合（EU）の外交官数名が開所式に出席した。このイベントの報は広範な議論を引き起こし、活動家に対する暴力の脅威さえも招いたようだ。こうした緊張は、家主が当局に団体を通報した後、**2月24日**に警察による施設への強制捜査へと発展した。当時、ジェンダー・子ども・社会保護担当大臣代行は「LGBTの犯罪性に関する問題は交渉の余地がなく、我々の文化的慣習もこれを非難している」と述べた。[注 418]

2021年3月16日、トーゴ・タイムズ紙 [the Togo Times] はガーナ警察が「女性に扮したゲイ」を逮捕したと報じたが、この記事は後に削除され、本報告書の発表時点では事件の詳細を確認できなかった。[注 419]

2021年3月30日、オボメン [Obomeng] 市において「レズビアン結婚式」が執り行われているとして現地の首長が通報した後、22名が逮捕されたと報じられた。警察は結婚式の証拠を一切発見できず、参加者らは誕生日パーティーだったと主張したが、当局は「新型コロナウイルス感染症対策規則違反の容疑について法廷で釈明させる」として、いずれにせよ身柄拘束を継続すると表明した。市民団体「アフリカ平等センター」[African Equality Centre] はこの事件を受け、過去数か月間「宗教・政治・メディア関係者による前例のないほどの同性愛嫌悪が蔓延していた」と表明した。[注 420]

2021年5月20日、ホー [Ho] 市のガーナ・ナース・アンド・ミッドワイフリー・ホテル [Ghana Nurses and Midwifery Hotel] において、ボルタ州警察司令部の警察官らにより活動家21名が逮捕され、不法集会罪で起訴された。警察当局者は「LGBTQ行動を普及させるこれらの人々の目的」についてさらに捜査を進めると述べた。[注 421] 皮肉なことに、この会議は本来、警察や国家による迫害に対処するためのパラリーガルの能力向上を主目的としていた。しかし警察は、会議が実際には「若者を同性間の性的行為に誘引・誘惑する」ためのものだという情報に基づいて行動したと主張した。政府は、この疑惑について、少なくとも一室が同性2名で利用されていた事実や、会場で性的指向・性自認に関する教育書籍・パンフレットが発見された点によって裏付けられたと見なしているようである。6月11日、被告らは22日間の勾留と複数回の保釈拒否の後、ガーナ各地から会議に参加したため警察が全員を追跡して追加調査を行うのは困難であるとの理由で保釈が認められた。[注 422] **8月5日**、同集団に対する訴訟は最終的に取り下げられ、裁判所は彼らが不法に集会したことを立証するに足る証拠がないとの判断を下した。[注 423] 逮捕された当事者内の少なくとも1名は、パン・アフリカ ILGA および ILGA ワールドの緊密な提携者・同盟者であることが確認されている。この事件は、7月、複数の国連特別手続機関がガーナ当局宛てに送付した公式書簡で非難され、これが「ホーの21人」の解放を求める国際的な圧力拡大に寄与した可能性がある。[注 424] しかし、**2021年8月13日**付の国連人権理事会への声明において、ガーナ政府代表部は、本件は集会の悪意ある意図の疑いから、恣意的拘禁に

は該当せず、またガーナは数多くの国連条約の締約国として、実際に LGBT+ の人々の権利を尊重していると主張した。[注 425] **2022 年 6 月 14 日**、逮捕から 1 年余りを経て、市民社会組織連合が活動家らを代表し、ガーナ高等裁判所に警察監察総監と司法長官を相手取った 2 件の訴訟を提起した。1 件は身柄拘束された活動家 3 名を代表し、違法な恣意的拘禁、差別及び集会の自由の権利の侵害に対する救済を求めた。もう 1 件は、別の独房で身柄拘束されたインターセックスの女性を代表し、警察が他の被収容者らに「彼女が女性であることを証明する」ために性的暴行を加えるよう促したと主張している。本報告書の公表時点では、いずれの訴訟にも判決は出ていない。[注 426]

2021 年 5 月 28 日、人気オンライン「インフルエンサー」が合意の上での同性間の性行為に及んでいるとされる動画が拡散し、本人は身を潜めソーシャルメディアアカウントを停止した。同人は警察から指名手配されていると報じられている。[注 427]

ガーナの活動家が、**2021 年 6 月**、彼らの団体は警察に 5 日間身柄拘束されていたゲイ男性の解放のために賄賂を支払ったと報告している。その男性は拘禁中に服を脱がされ、写真を撮られ、暴行を受けたと伝えられており、負傷のため病院に搬送される必要があった。その後、介入した団体は、最初に警察に通報した地域住民に見つからないよう、彼を秘密の場所に移動させた。[注 428]

2021 年 10 月、ガーナの首都アクラで、29 歳のノンバイナリー（性別を二元論で捉えない者）が「ゲイ」であるとして近隣住民に襲撃され、警察に連行された。この騒動で少なくとも 2 人が警察に逮捕された。拘禁中、警察は一般市民に被拘禁者の撮影を許可した疑いがある。当局は「保釈金」を名目に釈放のための賄賂を要求したが、女性的な振る舞いが見られる活動家や、正式な領収書を要求する NGO からの金銭は拒否した。被拘禁者は金銭を得るために親族に連絡して、自らの性的指向を明かさざるを得なかった。非二元性の者の家族は、違法な保釈金要求に応じるために衣服の一部を売却せざるを得なかった。[注 429]

2021 年 10 月 14 日、中部州のレストランで働く 2 人のゲイ男性が、勤務先の店主が警察に通報したため逮捕された。伝えられるところでは、2 人は性的関係をめぐる争いからナイフを使った乱闘に発展したが、当局は誰が暴力を引き起こしたかを特定せず、二人の身柄を拘束したが、それは明らかに彼らの性的指向を理由としたものと考えられる。[注 430]

2021 年 10 月 19 日、現地報道機関の報道によると、タマレ [Tamale] 市で 2 人の男性が逮捕された。二人の間の喧嘩が、明らかな恋愛関係の破局をきっかけに暴力に発展し、騒ぎに気づいた市民が通報した結果であった。この事件及びそれに伴う逮捕は、後に「タマレ 5 人組事件 [The Tamale Five]」として知られるようになる。二人は取り調べを受け、その過程で他の 2 人のゲイ男性の名を挙げたが、彼らが逮捕されたかは不明である。最初のカップルは地元の長老から 1,200 セディ（195 米ドル）および雄羊 1 頭ずつの罰金を科された後、警察に引き渡され、正式な起訴と裁判にかけられた。ガーナ法では、長老は特定の首長権問題、土地紛争、

軽微な犯罪について一定の司法権限を有する。この長老は「LGBTQ+の行為で自分の土地が冒流された」ことを理由に、自身の決定を正当化した。[注 431] 警察はまた、最初のカップルを知っていると自認したホテルの清掃員も逮捕した。この清掃員は、行進させられ暴行を受けた他の 3 人と一緒に拘禁されたと報告している。拘禁中、同室の他の被収容者からいじめを受け「保護」料の支払いを強要されたと述べ、平手打ちを受け、生命を脅かされたとも報告している。5 人目となる女性も **10 月 19 日**に逮捕された。警察は彼女の店に突入し、「地域におけるゲイとレズビアンリーダー」であると主張した。同日、父親が介入し、彼女が結婚して幼い子ども 3 人を抱え、妊娠中であることを説明したため釈放された。父親は少なくとも 1,200 ガーナ・セディ（約 195 米ドル）の賄賂を支払った。被害者の解放を試みたトランスジェンダー活動家は、警察署に到着した際に自身も逮捕されそうになったと報告している。[注 432] 「タマレ 5 人組事件」は、最終的に「自然でない性交」で起訴された。5 人は数回にわたり裁判所に出廷したが、証拠不十分により **2022 年 2 月 21 日**に起訴が取り下げられた。裁判およびそれに伴う被告らへの社会的烙印の結果、数名は親族から勘当されたり、公の場で嫌がらせに遭ったりした。ホテルの清掃員は職を失い、女性は家族や顧客の支援を失っただけでなく、胎児も失ったと報告している。彼女は流産をこの苦難によるストレスが原因だと訴えている。[注 433]

中部州の教会の主任牧師が、**2022 年 3 月 27 日**、自警団により罾にかけられたとみられるが、詳細は不明なまま逮捕された。当該牧師は 25 歳の男性に性的関係を求め、近くで建設中の建物での密会を約束したとされている。当該男性は、その後、友人 2 人に現場に来て牧師を現行犯逮捕するよう仕組んだと主張している。彼らは牧師を警察に引き渡し、警察は後にメディアに対し、カソア [Kasoa] 地方裁判所で起訴される予定であることを確認した。[注 434]

アクラの警察は、**2022 年 6 月 26 日**未明、強盗現場への通報を受けて 29 人の男性を逮捕したと報じられている。窃盗団が市内の一軒家に侵入し、居合わせた男性が警察に通報すると、窃盗犯は警官に対し「ゲイのパーティーだ」と主張した。当局は男性らに賄賂を要求したが支払われず、彼らはグバウェ・ノース [Gbawe North] 警察署の空き女性用留置室に収容された。窃盗犯は逮捕されなかった。同日遅く、複数の弁護士と活動家が保釈を試みたが、逮捕時に重傷を負い歩行不能となった男性 1 人のみの解放に成功した。**6 月 27 日**月曜日、24 時間以上の身柄拘束後、残りの者らは「不法集会」の容疑で起訴され、保釈された。30 人目のトランスジェンダー女性は、パーティーに向かう途中、警察を見てその場を離れようとしたが、同様に逮捕された。彼女は 2,000 セディ（約 240 米ドル）の賄賂を要求されたが所持しておらず、グバウェ・ラファ [Gbawe Lafa] 警察署へ連行された。ある警官は「安全を感じられるように」と他の被疑者から隔離されたと説明したという。後に他の被疑者と同じ施設に移送され、保釈が認められた。警察は彼女の家族に「カミングアウト」をしようとし、母親に「どうするつもりだ？」と問いただしたが、家族は既に彼女の正体を知っていた。しかし地元の活動家によれば、逮捕された 29 人の男性のうち数名はその後、家族から勘当されたという。[注 435]

2023年3月、インターネット上に動画が流出し、ソマニヤ〔Somanya〕の牧師が別の男性に性的関係を持ちかける様子が明らかになった。最終的に人里離れた場所で会う取り決めがなされた。牧師が約束の場所に到着すると、若い男性と共犯者2人に待ち伏せされ、暴行を受けた上、用意できなかった金銭を要求された。

その後、東部州警察が介入し、捜査の主導権を掌握した。これにより、牧師と他の関係者のいずれもが最終的に逮捕された。両者はその後、さらなる法的手続きを待つ間、保釈された。〔注 436〕

※ 脚注の詳細は、本クエリー回答の参照情報をご覧ください。

2. 社会における LGBT の人びとの取扱い（民間人による暴力・攻撃等の件数・事例等）

上記文書で引用されている各事例の更なる詳細については、本クエリー参考情報に記載の引用元の文書をご覧ください。

ア イギリス内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ：性的指向、性自認及びジェンダー表現 \(SOGIE\)、4.0 版](#)」（2024年7月）

12.2 暴力と差別 - 全般

12.2.1 参照した資料には、LGBTI の人々に特に関連する公式の暴力や差別の統計は存在しなかった（参考文献を参照）。

12.2.2 ライツ・アフリカ〔Rights Africa〕の暴力急増記事 2021 年は、ライティファイ・ガーナ〔Rightify Ghana〕が X（旧 Twitter）で次のように述べたことを引用している。「〔2021 年〕10 月 30 日 - 以前は週に 3~4 件だった事件が、広範な反 LGBTQ 法案が議会に提出されて以来、倍以上に増加した。現在では、LGBTQI の人々に対する人権侵害が 1 日あたり 2~3 件発生している〔。〕残念ながら、被害者はその後警察に送致される。」〔注 118〕

...

12.2.4 ロイター通信の 2021 年論説記事は次のように述べている。「ガーナの LGBT+権利団体は、8 月に法案が提出されて以来、同性愛嫌悪による攻撃が急増していると報告している。」〔注 119〕

12.2.5 アウトライト・インターナショナル〔Outright International〕の 2022 年保護報告書は、次のように述べている。「特に 2021 年には、同性愛者と見なされた人々に対する集団暴行や公衆の面前での暴行が複数発生した。」〔注 120〕

12.2.6 同情報源は、次のように述べている。「ガーナの活動家らは、法案提出以降、性的及びジェンダー・マイノリティを標的とした殺害予告の事案が増加していると報告している」。また、次のように報告している。「多くのインタビュー回答者が、法案提出以降、恐喝が蔓延しつつあると報告している」。〔注 121〕

12.2.7 ライティファイ・ガーナは、2022 年 5 月 28 日付記事「ボノ州とアハフォ

州で LGBTQ の者への虐待事例が急増、パラリーガルがライティファイ・ガーナに報告」(以下「ライティファイ・ガーナ 2022 年ボノ・アハフォ記事」という。)において、法案と「宗教・伝統・政治・メディア界の著名人による同性愛嫌悪発言」の両方が、虐待事例の増加に寄与したと指摘した。[注 122]

...

12.2.9 同報告〔ライティファイ・ガーナ 2022 年ボノ・アハフォ記事〕は、次のように述べている。「被害者とパラリーガル双方からの情報によると、ミム [Mim]、ゴアソ [Goaso]、ウェンチ [Wenchi]、スニャニ [Sunyani]、ンコラザ [Nkoranza] 及びテチマン [Techiman] のほか、アシャンティ州に位置しながらボノ・アハフォ州、ボノ・イースト州、アハフォ州の各州に近接するテパ [Tepa] では、LGBTQ の人々に対する虐待事件が、懸念されるほど増加していることが確認されている。」[注 123]

...

12.2.14 オープンデモクラシーの 2023 年司法制度報告は、次のように述べている。「ガーナ政府を含む「人間の性的権利と家族価値観法案」の支持者らは、法案発表以降のクィア・コミュニティが直面する暴力の増加を認めていない。特に 2023 年 2 月、国連人権高等弁務官事務所による人権状況評価のための普遍的定期審査において、ガーナのゴドフレッド・ダム司法長官は次のように述べた。『ガーナにおいて LGBTQI+ の人々に対する暴力の加害事例は確認されていない。』」[注 127]

12.2.15 同文書〔オープンデモクラシーの 2023 年司法制度報告〕は、さらに次のように報告した。

「司法長官によるこうした事件の否定こそが、人権団体「ライティファイ・ガーナ」が事件の記録の取り組みを強化した理由の一つだ。2023 年だけでも、ライティファイは学校での差別から暴力的な襲撃まで、約 70 件の虐待事案を追跡している。同団体は、これらの事案がガーナのクィアに対する実際の虐待事案のごく一部に過ぎないと見ている。暴力被害に遭った多くの LGBTQI+ の人々は、さらなる被害を恐れて警察に通報していないという。」[注 128]

12.2.16 米国国務省の人権報告書 2023 年版は、明らかに同じ NGO〔オープンデモクラシーの 2023 年司法制度報告〕に言及し、次のように述べている。「民間人による LGBTQI+ の人々への攻撃は頻繁に発生し、その数は増加傾向にあった。攻撃は次第に組織化が進み、…LGBTQI+ コミュニティに対する暴力を追跡する現地の市民社会組織は、年間で 76 件以上の攻撃を報告した。1 月には、襲撃者らが伝統的祝祭を妨害し、主賓に対して同性愛嫌悪に基づく攻撃を加えた。…」[注 129]

...

12.2.21 ロイターは、2024 年 2 月 7 日付記事「ガーナの LGBTQ+ 活動家、教会の祝福は遠い夢と語る」(ロイター 2024 年教会祝福記事) で次のように報じた。「ガーナにおける LGBTQ+ の人々が直面する虐待に関する包括的なデータは存在し

ないが、現地のメディアには、全国でゲイやトランスジェンダーと疑われた人々が私刑に遭う事件の報道で溢れている。」[注 135]

…

12.4 暴力と差別：ゲイ及びバイセクシャル男性

12.4.1 CNN は 2021 年 10 月 8 日付の記事「極右とつながりのある米国団体がガーナの LGBTQ コミュニティ弾圧に影響を与えた可能性」(CNN2021 年弾圧記事)において、ソーシャルメディアに投稿された LGBTI に対する嫌がらせや攻撃の動画では、被害者のほとんどがゲイと見なされた男性であったと報じた。[注 144]

…

12.4.3 ライティファイ・ガーナ 2022 年ボノ・アハフォ記事は、ゲイ男性への襲撃を報告し、次のように記載している。

「被害者の証言によると、2 週間前にアハフォ州ミムで彼を殴打し強盗した 4 人の男は、過去に被害者を虐待した様子を収めた複数の動画を彼に見せた。

また彼らは、いくつかの町にある他の暴力的な反 LGBTQ 団体との繋がりを明かし、「彼らは我々の仲間だ」と告げた。さらに、テチマン [Techiman] でゲイの人物を暴行した人物の名前を挙げ、その暴力的な襲撃の動画がソーシャルメディアで公開されたことも伝えた。」[注 145]

12.4.4 同文書は、テチマンで襲撃されたゲイ男性は殴打され、裸で砂地を引きずられたと述べている。さらにボノ州スニャニのオドゥマセ [Odumase] では別のゲイ男性が全裸に剥がれ殴打され、その襲撃映像もソーシャルメディアに投稿されたと報じている。テチマンとオドゥマセの事件の日付は、同文書には記載されていない。[注 146]

…

12.4.6 ライティファイ・ガーナは 2022 年 7 月 2 日付記事 (ライティファイ・ガーナ 2022 年ヌングア記事) において、2022 年 7 月 2 日にグレーターアクラ圏のヌングアで、あるゲイ男性が 2 人の男性に平手打ちされ、同性愛者を差別する罵声を浴びせられ、脅迫され、その後、不特定の数の人々が加わったと報告した。[注 147] 同記事によれば、彼らは被害者を殴打し、携帯電話を奪い、返却のために金銭を要求したという。同記事はさらにこう記している。「被害者は、LGBTQI+ のガーナ人に対する不寛容と差別的行為の増加に懸念を表明しながら、「32 歳だが、嫌がらせを受けたのは今回が初めてで、殴打されたのも初めてで、恐喝されたのも初めてだ。怖い…。」と語った。」[注 148]

12.4.7 HRW の 2023 年の記事によると、アクラの男子寄宿学校から 17 歳の生徒が退学処分となった件を調査していた活動家は、「その少年が男らしくない様子を見せたため、死亡脅迫を含むその他の形態の同性愛嫌悪行為が加えられていた」ことを発見した。[注 149]

…

12.4.9 CNNの2023年市民記事は、X（旧 Twitter）上のライティファイ・ガーナの投稿を引用し、2023年4月に「国内有数の大都市クマシで、4人の男性が同性愛者だと攻撃者らに誤解されたため暴行を受けたとされる。…」と報じた。
[注 150]

12.4.10 ガーナ・レポート（Ghana Report）は「世界中の多様な視点から」ニュースと情報を提供するウェブサイトである [注 151]。同サイトが2023年4月28日付で掲載した記事「ゲイの疑いで男性を暴行した容疑で3人が勾留される」（ガーナ・レポート2023年ケンティックロノ暴行記事）によれば、5人の男からなるグループが、22歳の男性を「残忍に襲撃した」と報じた（ガーナ・レポート2023年ケンティックロノ暴行記事）。同記事によれば、このグループは「被害者を虐待し、強盗し、目に液体を噴射し、同性愛者だと主張して家族から身代金を要求した」とされ、被害者は「2023年4月22日（土）、被告の一人が彼を誘ったケンティックロノ [Kentikrono]（クマシ）でガラスルーバーの刃による傷を負わされた」と記されている。[注 152]

…

12.4.12 ガーナ・レポートは2023年5月の『『ゲイ支援者』が窮地に』と題する記事で次のように報じた。「アクラのアデンタ [Adenta] 地区で自動車整備士が、同性愛嫌悪の若者グループに襲われていたゲイの顧客の命を救った後、窮地に立たされている」。同記事によれば、整備士のママドゥ・イドリス [Mamudu Iddrisu] がゲイの顧客を逃がした後、被害者を襲っていた若者グループはイドリスを「ガーナの様々な青年団体が根絶を目指しているゲイの秘密コミュニティ」のメンバーだと非難した。グループはイドリスの自宅を襲撃し、「本記事執筆時点では彼の行方はまったくわかっていない」。[注 153]

12.4.13 ガーナウェブ [GhanaWeb] は、2023年7月19日付記事「ソウトゥオムで同性愛者とされる男性が襲撃され6回以上刺される」（GhanaWeb 2023年ソウトゥオム記事）において、アクラのソウトゥオム [Sowutuom] で若い男性が身元不明の集団により「暴行を受け殴打された」と報じた。同記事は次のように伝えている。「目撃者らは、被害者がゲイであり、性的関係を求めて意図的にその地域に赴いたと主張し、介入を拒否したと報じられている」。民間ラジオ局レインボー・ラジオ [Rainbow Radio] の報道を引用し [注 154]、被害者は6回以上刺されたと示唆している。 [注 155]

…

12.4.15 米国国務省の人権報告書2023年は、次のように記載している。「5月、3名がソーシャルメディアで接触した男性を暴行・強盗し、被害者が同性愛者であると信じたことを暴行の正当化の理由とした」 [注 156]

…

12.4.17 ワシントン・ブレイド [Washington Blade] 2024年暴行記事は、次のように報じた。
「先週、4人の男が、あるガーナ人男性を同性愛者だと非難し、暴行を加えた。」

クィア・ガーナ教育基金 (QuGEF) によれば、同国アッパー・イースト州ズアルング [Zuarungu] で男性を襲撃した 4 人の男は、現在国会で審議中の反 LGBTQ 法案「健全な人間の性的権利とガーナの家族的価値観を促進する法案」に言及した。同団体によると、襲撃者らは 25 歳の男性 (フランシスと名乗る) に対し、この法案がすでに法律となったと告げたという。

「彼らは待ち伏せして同性愛を非難し、法案が可決されたため法律に基づいて行動していると告げた」と、クィア・ガーナ教育基金はプレスリリースで述べた。[注 157]

…

12.4.19 バイセクシュアル男性に関して、アウトライト・インターナショナルの 2022 年保護報告書は、アシャンティ州に住むバイセクシュアル男性モーゼス [Moses] の言葉を引用している。「法案が提出される前は普通だった。でも今は、人々は私たちが悪魔のように見ている。まるでガーナで起きている問題の原因が私たちであるかのように。以前は安全な場所があったが、今はもうない。」 [注 158]

12.4.20 同報告書によれば、2021 年 12 月、8 人組がモーゼスの自宅に押し入り、携帯電話とノートパソコンを奪い取り、1,000 セディ (約 67.80 ポンド) を支払わなければ性的指向を暴露すると脅迫した [注 159]。彼は可能な限りの金額を渡したが、翌月再び現れた。報告書は続く。

「彼は共同住宅の別の男性に助けを求めたが、バイセクシュアルであることが原因で嫌がらせを受けていると説明すると、同居人は支援を拒否した。…

「アウトライトは、2022 年 6 月、モーゼスの隣人らが再び彼を襲撃し、2022 年 3 月と 4 月に暴行を加えたとの情報を入手した。…」

12.4.21 同じ情報源はまた、次のように報告している。

「中央州で働くバイセクシュアルのクワメ [Kwame] は、自身の性的指向を知っていた親しい友人に罠に嵌められた。」

「彼 [友人] はゲイの友人がいると言い、私たちを引き合わせた。罠だとは知らなかった。その男と会った。話していると、別の 3 人の男がやって来て、私に詰め寄ってきた。『お前がゲイか?』と言って殴りかかってきた。弁解しようとしたが、殴られ続けた。何をされるか本当に怖かった」。別の機会には、クワメは近隣住民から嫌がらせを受け、喧嘩を仕掛けられ、結局その地域を離れざるを得なかったと語った。[注 160]

12.4.22 同報告書はさらに、クワメが新しい地域に移った際、新たな近隣住民から殺害予告を受けたと述べている。[注 161]

※ 脚注の詳細は、原文または本クエリー回答の参照情報をご覧ください。

イ RDC 「[COIクエリー回答 ガーナ：LGBT](#)」 (2024 年 7 月 30 日)

本報告書 [HRW の 2024 年 3 月レポート] はまた、次のように述べている。:

「LGBT の人々に対する攻撃に関する法案をめぐる議論は、LGBT と見なされる人々に対する攻撃の増加と関連している。」[注 8]

※ 脚注の詳細は、原文または本クエリー回答の参照情報をご覧ください。

ウ [RDC「COI クエリー回答 ガーナ：ガーナの LGBTQ コミュニティに関する情報および LGBTQ コミュニティのメンバーに対する取扱い」\(2024年3月26日\)](#)

2024年2月、アムネスティ・インターナショナルは、次のように述べている。「法案が議会に提出されて以来、LGBTI の人々はすでに強制立ち退き、職の喪失、暴力の増加、および同国憲法で保障されている権利のその他の侵害を報告している。」[注 8]

…

ロイター通信は、2024年2月、次のように指摘している。「ガーナにおける LGBTQ+ の人々が直面する虐待に関する包括的なデータは存在しないが、現地のメディアには、全国でゲイやトランスジェンダーと疑われた人々が私刑に遭う事件の報道で溢れている。こうした事件が法廷に持ち込まれることは稀である、」[注 10]

…

この文書 [Erasing 76 Crimes の 2024年1月報告] は、更に次のように記している。「ある痛ましい事件では、6人の男子学生が、女性的な特徴があると見なされたことを理由にゲイであると非難した約30人の覆面をした同級生らによって、キャンパス内で残忍な襲撃を受けた。」[注 14]

ヒューマン・ライツ・ウォッチが 2023年12月に発表した報告書は、次のように述べている。「…ガーナの LGBT の人々は、歴史的に深刻な人権侵害に直面してきた。日常的に身体的・精神的な暴力、恐喝および差別を受けている。多くの人々が、単に自分であるという理由だけで襲われることを常に恐れて生活している」[注 15]

※ 脚注の詳細は、原文または本クエリー回答の参照情報をご覧ください。

エ [ILGA「逮捕に晒されるアイデンティティ、第2版」\(2023年11月30日\)](#)

法の執行の概要

…

これは、ガーナでは「自警団」による超法規的な攻撃が珍しくないことを示す報告にも反映されている。2021年1月25日、現地メディア「モダン・ガーナ [Modern Ghana]」は、複数の自警団が「同性愛者にとってガーナを地獄にする作戦」と呼ばれる非公式な取り組みを通じて、LGBT+ の者らを明確に「狩る」ために存在していると報じた [注 393 : Modern Ghana 2021年1月26日付け記事]。メディア自体

もこうした「狩り」や道徳的パニックにしばしば加担しており、ILGA ワールドは複数の現地ウェブサイトが扇動的な報道で定期的に同性愛嫌悪の炎に油を注いだり、警察が指名手配する LGBT+の者らを特定するために積極的にプラットフォームを利用したり、政治家に圧力をかけて行動を起こさせることを目的としたと考えられる記事を掲載したりしていると指摘している。

アムネスティ・インターナショナルのガーナ支部長ロバート・アコト・アモアフォ [Robert Akoto Amofo] は、2020年のインタビューで、刑法が「法廷で執行される」ことは稀だと述べ、「むしろ全国で警察や個人による LGBTIQ コミュニティへの迫害の道具として、人々を虐待し搾取するために利用されている」と付け加えた [注 394]。ガーナにおける否定的な社会的態度と超法規的な暴力が、いかに立法、政治及び警察活動と絡み合い、現地の状況を明確に説明することを確実に複雑にしている。

2021年にガーナで LGBT+の団体や個人に対する標的化が顕著に増加したことを受け、社会と政府の双方において、より厳しい刑事罰化政策の導入を求める声も高まっているようだ。3月8日、アクラの LGBTI+支援 NGO に対する強制捜査を受けて、6名の国会議員が「同性愛の擁護活動と実践を国内で禁止・犯罪化する超党派の議員立法を共同提出する意向を示唆した」と報じられた [注 395]。2021年6月、ILGA ワールドは、国会議長からの公式書簡の存在を把握した。そこには「これらの団体の活動を芽のうちに摘むための法律を可決するため、緊急措置が講じられている」と記されていた。

...

※ 脚注の詳細は、原文または本クエリー回答の参照情報をご覧ください。

3. 国家保護、当局による被害者への虐待

ア RDC [「COIクエリー回答 ガーナ：LGBT」](#) (2024年7月30日)

同報告書 [米国国務省人権報告 2023年ガーナ] は、さらに次のように指摘している。「LGBTQI+コミュニティは、警察による LGBTQI+の者への暴力を報告した。市民社会組織や活動家らは、警察が LGBTQI+の者に対する暴行や暴力の申し立てを調査することに消極的であると報告した。スティグマ、威圧、そして一部の警察官が LGBTQI+の者に対して抱くと見られる偏見が、被害者による虐待の申告を妨げていた。活動家らは、社会的・政治的偏見のため、LGBTQI+コミュニティが直面する問題について当局と協議することが極めて困難であると指摘した。立ち退き、恐喝、公衆面前での屈辱および地域社会からの排斥が頻発していた。刑務所内の LGBTQI+の者は、嫌がらせや性的・精神的・身体的虐待の被害を受けやすく、また、当局は、通常、これらを調査しなかった。民間人による LGBTQI+の者への攻撃は頻繁に発生し、その数は増加傾向にあった。」 [注 2]

※ 脚注の詳細は、原文または本クエリー回答の参照情報をご覧ください。

イ イギリス内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ：性的指向、性自認及びジェンダー表現 \(SOGIE\)、4.0 版](#)」(2024年7月)

12.2 暴力と差別 - 全般

...

12.2.2 ライツ・アフリカ [Rights Africa] の暴力急増記事 2021 年は、ライテシファイ・ガーナ [Rightify Ghana] が X (旧 Twitter) で次のように述べたことを引用している。「[2021 年] 10 月 30 日 - 以前は週に 3~4 件だった事件が、広範な反 LGBTQ 法案が議会に提出されて以来、倍以上に増加した。現在では、LGBTQI の人々に対する人権侵害が 1 日あたり 2~3 件発生している [...] 残念ながら、被害者はその後警察に送致される。」[注 118]

...

※ 前掲

13.1 警察の対応

...

13.1.2 2022 年と 2023 年を対象とした AI の LGBTI 報告書によると、2023 年 10 月に実施されたオンラインインタビューで、ある非公開の NGO は「...アムネスティ・インターナショナルに対し、LGBTI の人々が攻撃や虐待 (物理的またはソーシャルメディア上) の被害者となるほとんどのケースで、警察に通報しないことを伝えた。彼らは恐れている。警察に暴行を報告すれば、恐らく脅迫され、同性愛者だと非難されることを知っている。被害者が警察に被害届を出そうとすると威圧され、『つまり君はゲイってことか? 逮捕できるって分かっているのか?』と言われることもある」と述べている。[注 238]

13.1.3 米国国務省の人権報告書 2023 年は、次のように述べている。「市民社会組織や活動家らは、警察は LGBTQI+ の人々に対する暴行や暴力の申し立てを調査することに消極的であると報告した。スティグマ、威圧、そして一部の警察官が LGBTQI+ の人々に対して抱いていると見られる偏見が、被害者による虐待の申告を妨げている。」 同報告書は、2023 年 5 月にゲイ男性が襲撃された事件では警察が 3 人の加害者を逮捕したと報告する一方、3 月、6 月、7 月、8 月及び 10 月に発生した「LGBTQI+ の人々に対する確認済みの襲撃事件」については、「警察が加害者を特定したことは一度もなかった」と記載している。[注 239]

...

13.1.5 同様に、LGBTI の人々全般に関して、オープンデモクラシー [OpenDemocracy] の司法制度報告書 2023 年は、次のように述べている。
「ガーナ民主主義開発センターのアドボカシー部長のコジョ・アサンテは、ガーナの警察署における正式な手続きを批判している。なぜなら、被害を申し立てるクィアの人々を保護する仕組みが全く存在しないからだ。」

「現行の制度では、先ず第一に、被害者が二度目の被害を受けると感じるため、事件が発生しても誰も通報しない」と、彼はオープンデモクラシーに語った。」
[注 241]

...

13.1.7 同文書によれば、匿名を希望する活動家グループが複数の事件で被害者を支援しているが、「裁判で解決された事例はまだ一件もない。法的措置を取らないことを決めた被害者もいる」という。ある事件では、被害者が「警察署で LGBTIQ の人々に対する汚職や警察による恐喝の疑い」に遭遇した。「この（反 LGBTIQ）法案が施行されれば、正義よりも恐喝が増えるであろう」と、このグループの活動家の一人は語った。[注 244]

...

13.1.10 ピンクニュース [Pink News] の人質事件に関する 2022 年の記事は、2022 年 8 月にガーナのアシャンティ州でライティファイ・ガーナ [Rightify Ghana] の事務局長が拉致・襲撃された後、同団体が「ガーナ警察と協力した」と報じ、「犯人が逮捕・起訴されれば、ガーナにおける LGBTQ+ の人々に対する犯罪の取り扱いにおける転換点となり得る」と指摘した。[注 246] 米国国務省の人権報告書 2022 年は、同事件について「警察は犯人を特定しなかった」と記載している。[注 247]

...

13.1.14 ガーナ・レポート [Ghana Report] の 2023 年ケンティックロノ暴行事件の文書によれば、ケンティックロノで 5 人の男が同性愛者と見なされた 22 歳の男性を襲撃した翌日、「…事件は警察に通報され、容疑者 3 名が逮捕され、裁判手続きが進められた」と報告されている。[注 249]

...

13.1.16 ガーナウェブ [GhanaWeb] の 2023 年ビビアニ・ゾンゴ記事によると、ビビアニ・ゾンゴで同性愛者の男性が怒れる群衆に身柄拘束された際、「警察が迅速に介入しなければリンチに遭っていたであろう」と報じている。[注 250]

...

13.1.18 警察が LGBTI の人々を襲撃した側に加担したと報じられた事例について、米国国務省の人権報告書 2022 年は次のように述べている。

「2022 年 6 月 26 日、アクラで誕生日パーティーを襲撃した身元不明の襲撃者たちに対し、警察は不当な不法集会容疑でレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クィア及びインターセックス (LGBTQI+) コミュニティのメンバー 30 名を逮捕した。警察は、そのパーティーが LGBTQI+ コミュニティのメンバーのためのものだと知ると、襲撃者を解放し、出席していた 30 人のコミュニティメンバーを逮捕した。警察は、弁護人の介入を受けて 6 月 28 日に活動家らを解放し、その後、証拠不十分を理由に起訴を取り下げた。」 [注 252]

13.1.19 アウトライト・インターナショナルの 2022 年保護報告書は、次のように

述べている。「アシャンティ州の活動家のウィリアムズは、暴徒による暴力の被害者であるゲイの男性と女性の2人に警察への通報を促したが、『警察は（彼らを暴行した）加害者である地域社会側に味方しようとしていた』と語った」[注253]

13.1.20 ILGA 報告書 2023 年版は次のように述べている：

「2023年3月、インターネット上に動画が流出し、ソマニャ〔Somanya〕の牧師が別の男性に性的関係を持ちかける様子が明らかになった。最終的に人里離れた場所で会う取り決めがなされた。牧師が約束の場所に到着すると、若い男性と共犯者2人に待ち伏せされ、暴行を受けた上、用意できなかった金銭を要求された。

その後、東部州警察が介入し、捜査の主導権を掌握した。これにより、牧師と他の関係者のいずれもが最終的に逮捕された。両者はその後、さらなる法的手続きを待つ間、保釈された。」[注254]

...

※ 脚注の詳細は、原文または本クエリー回答の参照情報をご覧ください。

<参考>イギリス内務省「[国別政策及び情報ノート ガーナ：保護の主体、2.0 版](#)」（2025年3月）

女性、農村部に住む人々、経済的余裕のない人々、障がいのある人々は、それぞれの事情に応じて、保護にアクセスする上で何らかの障壁に直面する可能性がある。レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランス及びインターセックスの人びとは、一般的に保護を受けることができない（具体的な指針と情報については、「国別指針・情報ノート ガーナ：性的志向および性自認と表現」を参照のこと）。

ウ ILGA「[逮捕に晒されるアイデンティティ、第2版](#)」（2023年11月30日）

法の執行の事例

...

2016年8月、パン職人として知られる男性がタノクロム〔Tanokrom〕で自身の誕生日を祝う大規模なパーティーを開催し、来賓のために精巧なケーキを焼いた。そのケーキを同性婚の証拠であると考えた集団がパーティーを妨害し、来賓を暴行して貴重品を強奪した。主催者は近くのタコラディ市場警察署に事件を通報したが、逆に逮捕され、全来賓の身元開示を迫られた。300セディ（68米ドル）の賄賂を支払って釈放された。警察は後に、この同性婚パーティーに参加したとして15人の男性を逮捕したが、全員起訴されずに釈放された。[注413]

...

※ 前掲。

4. 2024年反同性愛法案と関連訴訟

(3) 2021年ガーナの反同性愛法案（健全な人間の性的権利及びガーナの家族的価値観の促進に関する法案（2021年））

ア ILGA [「ILGA Database - Ghana」](#)（2025年10月3日閲覧）

2021年、「健全な人間の性的権利及びガーナの家族的価値観の促進に関する法案（2021年）」が提出された。この法案が可決されれば、「同性間の性交」で有罪となった者に対する最低刑期は3年になり、最高刑は5年及び罰金にそれぞれ引き上げられる。同法案はさらに、同性婚の行為、トランスジェンダーの者に対する性別適合手術の実施、あるいは単にレズビアン、ゲイ、トランスジェンダー、トランスセクシュアル、ノンバイナリー、クィア、パンセクシュアル、バイセクシュアル、あるいはLGBT+コミュニティの支援者として公然と表明する行為（「表明」）に対しても、同様の刑罰を規定している。2022年2月から3月にかけて、法案の将来性を決定するため、複数の公聴会が開催された。

2023年3月31日、憲法・法律・議会問題委員会は、当該法案の報告書を議会に提出し、正式な審議と最終的な採決への道筋を整えた。これは、ガーナ司法長官がプライバシー権の侵害などの問題点を指摘し、法案の再起草を求めた後の動きである。しかし、同委員会と司法長官の間の「合意」により、原案の大部分はほぼそのまま維持されたと見られている。

2023年5月、現地メディアは、ある民間人が国会議長と司法長官を相手取り、法案の立法手続きの有効性に異議を唱える訴訟を提起したと報じた。訴訟では、両者が法案に包括的な財政影響分析を添付するという法的義務を遵守すべきであったと主張し、手続きの無効確認を求めている。

2023年7月5日、ガーナ国会は法案を第三読会（最終投票）へ進めることを全会一致で承認した。国会はまた、LGBTとして自己を表明することを3年以下の禁錮刑の対象とする改正案も可決した。LGBTQの権利を擁護する活動を行う者も、10年以下の禁錮刑に処される可能性がある。さらに、メディア各社は、同法案の最初の公聴会が11月10日に開始されたと報じた。

2023年12月、国会議長アルバン・バグビン〔Alban Bagbin〕は、法案が年内に可決されると断言した。これに先立ち、第一副議長は法案の審議段階への付託を求める要請を却下していた。

2024年2月上旬までに、法案をめぐる議論と修正は継続しており、一部メディアは「LGBTQ活動を援助、促進、奨励、または推進する者」に対する刑罰を禁錮5年から6か月の禁錮刑に引き下げる修正が行われたと報じた。この頃、ガーナのナナ・アクフォ・アド大統領が法案を拒否する意向であると未確認の情報が報じられ、それが事実であれば、法案の一部が緩和された一因となった可能性がある。2月15日には、アレクサンダー・アフェニョ・マーキン〔Alexander Afenyo-Markin〕多数党院内副幹事が、禁錮刑を「社会奉仕」に置き換えることを求める法案の第3読会を阻止したと報じられた。同副院内幹事は、この法案に全面的に反対しているわけではないが、禁錮刑によって同性愛という「行動上の問題」が解決されるとは

考えておらず、その代わりに「更生」の必要性を強調したと述べた。それにもかかわらず、国会内で強い反対があったため、彼は法案へのこれらの修正を撤回した。2024年2月28日、ガーナ国会は、「健全な人間の性的権利およびガーナの家族的価値観の促進に関する法案（2024年）」を承認し、2024年4月現在、大統領の署名を経て法律となるのを待っている。国連人権高等弁務官をはじめとする国連専門家らは、この差別的な法案が「同国の人権と民主主義の基盤そのものを損なう」と指摘し、ガーナ大統領に対し法案拒否を強く要請している。

法案への署名を求める内部圧力と、法案拒否を求める外部圧力に直面する中、2024年3月下旬、大統領府が法案の大統領承認送付を差し控えるよう国会に公式書簡を提出したと報じられた。報道によれば、この遅延は、法案に対する法的異議申し立てが解決されるまで要請されたものである。これには2023年5月に提起された異議申し立てに加え、議会の定足数不足を理由に最高裁で提起された法案成立への異議申し立ても含まれる。これを受け、ある国会議員が大統領に法案の承認を強制するためアクラ高等裁判所に訴訟を提起したが、司法長官が反対の宣誓供述書を提出したため、その後延期された。2024年12月、最高裁判所は両訴訟を却下し、法案が法律として成立するまではその合憲性について判断できないと述べた。

同時に、刑法（1960年）第104条第1項(b)が、プライバシー権及び差別禁止権を侵害すると主張する原告らにより、同項の違憲性を宣言するための別の事件が最高裁判所に提訴された。しかし2024年7月24日、最高裁判所は、判決番号J1/18/2021（2024）号において、刑法第104条第1項(b)を支持する判決を下した。

2024年1月以降、ガーナ教育省「中等教育以前の学生行動規範（2024年）」第2条第16項(k)は、「同性の学生間のいかなる性的行為も不正行為を構成する」と定め、これに基づき「懲戒処分」の対象となり得る。現地の活動家らは、この規定はLGBT+の生徒を抑圧し、彼らに対する差別を正当化することを目的としていると主張している。なぜなら、同規範第2条第16項(a)において、性別を問わず生徒間のあらゆる性的行為は既に不品行と分類されていたからである。

2025年1月現在、2024年2月に可決された反LGBTQ+法案は、前国会の解散に伴い失効し、法律として成立することはなかった。同月に選出されたジョン・マハマ大統領は、同法案の再提出を支持することを避けていると報じられており、「学校や家庭においてガーナの家族価値観に関する教育を強化すれば、この法案に本質的な意義はない」と述べている。

イ Human Dignity Trust [「ガーナ最高裁判所 2024年12月18日リチャード・スカイ対ガーナ外事件判決」](#)（2025年1月10日）

12月18日、ガーナ最高裁判所は、「人間の性的権利及びガーナ家族価値観法案2021年」（以下「本法案」）に異議を唱える2件の訴訟を退けた。本法案は、2024年に議会で可決されたが、大統領の承認はまだ得られていなかった。1件は、リチャード・スカイ [Richard Sky] がガーナ議会及び司法長官を相手取り、本法案の合

憲性を争った訴訟であった。本訴訟では、議会の審議過程及び基本的人権に関する手続的・実体的な憲法規定の複数に違反していると主張した。スカイは、訴状において、この根拠に基づき本法案は違憲であるとして、その無効確認を求めた。

最高裁判所は、スカイの訴状が同裁判所の専属管轄権を適切に主張していないとの判断を全会一致で示した。裁判所は、法案がまだ法律として成立していない段階での司法介入は時期尚早であると論じた。なぜなら、裁判所の解釈権及び執行権は、法律が完全に制定され、その合憲性が適切に評価できる段階で行使されるべきものだからである。したがって裁判所は、本訴に理由がないとして却下した。

※ 本判決文は、Human Rights Dignity の上記ページの[ハイパーリンク](#)から閲覧できます。

ウ Human Dignity Trust [「ガーナ最高裁判所 2024 年 12 月 18 日アマンダ・オドイ 対ガーナ外事件判決」](#) (2025 年 1 月 10 日)

…

裁判所は、アマンダ・オドイ博士 [Dr. Amanda Odoi] が国会議長および司法長官を相手取って提起した訴訟を却下した。オドイ博士は、ガーナ憲法第 108 条に基づき、国会議長は議会審議中の議長として、法案が公的資金に負担を課すか否かについての見解を示す義務があると主張していた。オドイ博士は、議長がこのような評価なしに第 108 条への適合性を合理的に判断することは不可能であるため、法案の財政的影響に対する客観的評価が必要であると主張した。また、この評価を実施せず意見を提供しないことは違憲であると述べた。

最高裁判所は、当該の法案がまだ法案の段階にあって大統領の承認を得ていなかったため、この主張は時期尚早であると判断した。その合憲性を争う適切な時期は、大統領の承認を得て成立した後となる。

※ 本判決文は、Human Rights Dignity の上記ページの[ハイパーリンク](#)から閲覧できます。

参照情報：

(報告等)

アムネスティ・インターナショナル「We are facing extinction: Escalating anti-LGBTI sentiment, the weaponization of law and their human rights implications in select African countries (「私たちは絶滅の危機に直面している」：特定のアフリカ諸国における LGBTI への反感の高まり、法律の武器化と人権への影響)」(2024 年 1 月)、url : <https://www.amnesty.de/sites/default/files/2024-01/Amnesty-Bericht-Afrika-LGBTI-Diskriminierende-Gesetze-Unterdrueckung-Januar-2024.pdf>

イギリス内務省「国別政策及び情報ノート ガーナ：性的指向、性自認及びジェンダー表現 (SOGIE)、4.0 版」(2024 年 7 月)、url : <https://assets.publishing.service.gov.uk/media/668d1303541aeb9e928f46fb/GHA+CPIN>

[+Sexual+orientation+and+gender+identity+or+expression.pdf](#)

- _____ . 「国別政策及び情報ノート ガーナ：保護の主体、2.0版」(2025年3月)、
url : <https://www.gov.uk/government/publications/ghana-country-policy-and-information-notes>
- 国際レズビアン・ゲイ協会 (ILGA) 「Our Identities Under Arrest: A global overview on the enforcement of laws criminalizing consensual same-sex sexual acts between adults and diverse gender expressions, Second Edition (逮捕に晒されるアイデンティティ：成人間の合意に基づく同性間性行為及び多様なジェンダー表現を犯罪化する法律の施行に関する世界概観、第2版)」(2023年11月30日)、url :
https://ilga.org/wp-content/uploads/2023/12/Our_Identities_Under_Arrest_2023.pdf
- _____ . 「Our Identities Under Arrest: A global overview on the enforcement of laws criminalizing consensual same-sex sexual acts between adults and diverse gender expressions (逮捕に晒されるアイデンティティ：成人間の合意に基づく同性間性行為及び多様なジェンダー表現を犯罪化する法律の施行に関する世界概観)」(2021年12月15日)、url : https://ilga.org/wp-content/uploads/2024/02/Our_Identities_Under_Arrest_2021.pdf
- _____ . 「ILGA Database - Ghana」(2025年10月3日閲覧)、url : <https://database.ilga.org/ghana-lgbti>
- 難民ドキュメンテーションセンター (アイルランド) (RDC) 「COI QUERY RESPONSE - GHANA - LGBT (COI クエリー回答 ガーナ：LGBT)」(2024年7月30日)
url : https://www.ecoi.net/en/file/local/2116898/2024_07_Ghana_LGBT.pdf
- _____ . 「COI QUERY RESPONSE - GHANA - INFORMATION ON THE LGBTQ COMMUNITY IN GHANA AND THE TREATMENT OF MEMBERS OF THE LGBTQ COMMUNITY (COI クエリー回答 ガーナ：ガーナのLGBTQコミュニティに関する情報およびLGBTQコミュニティのメンバーに対する取扱い)」(2024年3月26日)、url :
https://coi.euaa.europa.eu/administration/ireland/PLib/2024_03_Ghana_LGBTQ.pdf
- ヒューマン・ライツ・ウォッチ (HRW) 「Ghana: LGBT Activists Face Hardships After Detention (ガーナ：身柄拘束後にLGBT活動家らが直面する困難)」(2021年9月20日)、url : <https://www.hrw.org/news/2021/09/20/ghana-lgbt-activists-face-hardships-after-detention>
- _____ . 「“No choice but to deny who I am”: Violence and Discrimination against LGBT People in Ghana (「ありのままの自分を否定するしか選択肢がない」：ガーナにおけるLGBTに対する暴力と差別)」(2018年1月8日)、url :
<https://www.hrw.org/report/2018/01/08/no-choice-deny-who-i-am/violence-and-discrimination-against-lgbt-people-ghana>
- 米国国務省「人権状況報告 2023年 - ガーナ」(2024年4月22日)、url :
<https://www.state.gov/reports/2023-country-reports-on-human-rights-practices/ghana/>
- _____ . 「人権状況報告 2022年 - ガーナ」(2023年3月20日)、url :

<https://www.state.gov/reports/2022-country-reports-on-human-rights-practices/ghana>

Asylos 「GHANA: Situation of LGBTQI+ individuals (クエリー回答 [AFR2023-30] ガーナ：LGBTQI+の人びとの状況)」(2024年3月)、url :

<https://resources.asylos.eu/available-research/information-about-the-report/?pdb=2315>

Asylum Research Consultancy (ARC) 「Ghana: State treatment of LGBTQI+ persons (ガーナ：LGBTQI の人びとの国家による取扱い)」(2021年3月)、url :

<https://asylumresearchcentre.org/wp-content/uploads/2021/03/Final-Ghana-state-treatment-of-LGBTQI-persons.pdf>

Human Dignity Trust 「ガーナ最高裁判所 2024年12月18日判決 Richard Sky v Parliament of Ghana and another (リチャード・スカイ対ガーナ外事件)」(2025年1月10日)、url : <https://www.humandignitytrust.org/resources/richard-sky-v-parliament-of-ghana-and-another/>

_____. 「ガーナ最高裁判所 2024年12月18日判決 Amanda Odoi vs Speaker of the Parliament and another (アマンダ・オドイ対ガーナ外事件)」(2025年1月10日)、url : <https://www.humandignitytrust.org/resources/amanda-odoi-vs-speaker-of-the-parliament-and-another/>

Outright International 「"We Deserve Protection": Anti-LGBTIQ Legislation and Violence in Ghana (「私たちは保護を受ける権利がある」：ガーナにおける反LGBTIQ立法と暴力)」(2022年8月29日)、url : <https://outrightinternational.org/our-work/human-rights-research/we-deserve-protection-anti-lgbtqi-legislation-and-violence-ghana>

(研究)

BOAKYE, Anthony Kwaku 「The Human Sexual Rights and Family Value Act of Ghana: A Systemic Discrimination against the LGBTQ+ Community in Ghana」 *European Journal of Development Studies* (2024年12月25日)、url : <https://www.ej-develop.org/index.php/ejdevelop/article/view/405>

(記事等)

アムネスティ・インターナショナル (AI) 「Ghana: President Nana Akufo-Addo must not sign deeply discriminatory anti-LGBT law」(2024年2月29日)、url : <https://www.amnesty.org/en/latest/news/2024/02/ghana-president-nana-akufo-addo-must-not-sign-deeply-discriminatory-anti-lgbt-law/>

ヒューマン・ライツ・ウォッチ 「Ghana: President Should Veto Anti-LGBT Bill」(2024年3月5日)、url : <https://www.hrw.org/news/2024/03/05/ghana-president-should-veto-anti-lgbt-bill>

_____. 「Human Rights Watch (12 December 2023) Ghana's Anti-LGBT Push Will Harm Its Democracy」(2023年12月12日)、url :

- <https://www.hrw.org/news/2023/12/12/ghanas-anti-lgbt-push-will-harm-its-democracy>
BBC 「Ghanaian MPs reintroduce controversial anti-LGBT bill」 (2025年3月4日)、url :
<https://www.bbc.com/news/articles/cdjy91gr48lo>
- CNN 「A proposed law in this country would require citizens to report LGBTQ people to authorities」 (2023年9月13日)、url :
<https://edition.cnn.com/2023/09/13/africa/ghana-lgbtq-community-fears-ccc/index.html>
- _____. 「How a US group with links to the far-right may have influenced a crackdown on Ghana's LGBTQ community」 (2021年10月8日)、url :
<https://edition.cnn.com/2021/10/08/africa/ghana-lgbtq-crackdown-intl-cmd/index.html>
- DW 「Ghana pushes anti-LGBTQ+ bill as defense of 'family values」 (2025年5月14日)、
url : <https://www.dw.com/en/ghana-pushes-anti-lgbtq-bill-as-defense-of-family-values/a-72540728>
- Erasing 76 Crimes 「Ghana schools adopt anti-homosexuality policy; homophobia flourishes」
(2024年1月15日)、url : <https://76crimes.com/2024/01/15/ghana-schools-adopt-anti-homosexuality-policy-homophobia-flourishes/>
- Ghana Report 「3 persons remanded for allegedly assaulting man on suspicion of being gay」
(2023年4月28日)、url : <https://www.theghanareport.com/3-persons-remanded-for-allegedly-assaulting-man-on-suspicion-of-being-gay/>
- _____. 「'Gay helper' in trouble」 (2023年5月11日)、url :
<https://www.theghanareport.com/gay-helper-in-trouble/>
- GhanaWeb 「Alleged gay man attacked at Sowutuom, stabbed more than six times」 (2023年7月19日)、url : <https://www.ghanaweb.com/GhanaHomePage/NewsArchive/Alleged-gay-man-attacked-at-Sowutuom-stabbed-more-than-six-times-1807496>
- _____. 「Police intervention saves suspected gay man from lynching at Bibiani Zongo」
(2023年7月1日)、url :
<https://www.ghanaweb.com/GhanaHomePage/NewsArchive/Police-intervention-saves-suspected-gay-man-from-lynching-at-Bibiani-Zongo-1795517>
- Modern Ghana 「Vigilante group hunt for homosexuals in parts of Accra」 (2021年1月26日)、url : <https://www.modernghana.com/news/1057357/vigilante-group-hunt-for-homosexuals-in-parts-of.html>
- OpenDemocracy 「The queer hate crime case testing the limits of Ghana's justice system」
(2023年9月26日)、url : <https://www.opendemocracy.net/en/5050/the-queer-hate-crime-case-testing-the-limits-of-ghanas-justice-system/>
- Pink News 「Violent homophobic thugs held Ghanaian LGBTQ+ activist hostage: 'Annoy us and we'll kill you」 (2022年8月28日)、url :
<https://www.thepinknews.com/2022/08/28/rightify-ghana-held-hostage/>
- Reuters 「Ghana LGBTQ+ activists see church blessings as distant luxury」 (2024年2月8日)、url : <https://www.reuters.com/world/africa/ghana-lgbtq-activists-see-church->

[blessings-distant-luxury-2024-02-07/](https://www.reuters.com/world/africa/ghana-parliament-begins-public-hearings-anti-lgbt-law-2021-11-11/)

_____ . 「Supporters and opponents face off over Ghana's anti-LGBT law」 (2021年11月13日)、url : <https://www.reuters.com/world/africa/ghana-parliament-begins-public-hearings-anti-lgbt-law-2021-11-11/>

Rightify Ghana 「AUDIO: 'I am not safe' – Gay man details harassment, physical assault, extortion and threat on his life by two homophobic men at Nungua, Ghana」 (2022年7月2日)、url : <https://rightifyghana.org/2022/07/02/i-am-not-safe-gay-man-details-harassment-physical-assault-extortion-and-threat-on-his-life-by-two-homophobic-men-at-nungua-accra/>

_____ . 「Abuse cases against LGBTQ persons surge in Bono and Ahafo regions, paralegals tell Rightify Ghana」 (2022年5月28日)、url : <https://rightifyghana.org/2022/05/28/abuse-cases-against-lgbtq-persons-surge-in-bono-and-ahafo-regions-paralegals-tell-rightify-ghana/>

Rights Africa 「Ghana's anti-LGBTQ bill leads to surge in anti-LGBTQ violence」 (2021年11月5日)、url : <https://rightsafrika.com/2021/11/05/ghanas-anti-lgbtq-bill-leads-to-surge-in-anti-lgbtq-violence/>

Washington Blade 「Ghanaian man assaulted for being gay」 (2024年2月5日)、url : <https://www.washingtonblade.com/2024/02/05/ghanaian-man-assaulted-for-being-gay/>

(その他)

ガーナ最高裁判所 2024年12月18日判決 (リチャード・スカイ対ガーナ外事件)、url : <https://www.humandignitytrust.org/wp-content/uploads/2025/01/Richard-Sky-v-Parliament-of-Ghana-and-another.pdf>

ガーナ最高裁判所 2024年12月18日判決 Amanda Odoi vs Speaker of the Parliament and another (アマンダ・オドイ対ガーナ外事件)、url : <https://www.humandignitytrust.org/wp-content/uploads/2025/01/Amanda-Odoi-vs-Speaker-of-the-Parliament-and-another.pdf>